

42 感染予防に関する共同研究 特にインフルエンザワクチン 接種とH I抗体価について

国立療養所西別府病院

国療筋ジス班18施設 三吉野 産 治
 高 本 京 子 長 野 伊都子
 玉 利 秀 夫 西 原 重 剛
 中 嶋 俊 郎 (西別府)
 加 地 正 郎 (久 大)
 横 井 忠 滋 (九大温研)

〔はじめに〕

閉鎖された病棟内の集団に流行性疾患が浸入すると爆発的流行となる事が多い。末期に心肺障害を示し、その事が high risk となっているPMD患児にとって、その積極的な予防と対策は重要かつ不可欠のものと考えられる。我々は今回共同研究として全国的な field work を行ない検討したので報告する。

〔方 法〕

表1.に示す如く、接種計画をたて、表2.の如く血清の採取を行ない、血清は凍結して航空便で全国より集めた。特に今回は接種量を吟味し、体重別に少量頻回にして副作用の軽減をはかる方法と、一般の方法のどちらか任意の方法をとって貰った。血清は、全て0℃以下で保存し、一定期間に個人あたり3～4個の血清は一済にマイクロタイター法にて測定し、測定誤差を少くした。

(表1.)

インフルエンザワクチン接種計画	
1. 接種ワクチン	A/熊本/22/76、B/岐阜/2/73
2. 実施期日	51年11月中に接種
3. 対 象	全国筋ジス施設 18カ所
4. 接種方法	
イ) 量、体重	9kg以下 1回 0.1ml
	" 19kg以下 1回 0.2ml
	" 19kg以上 1回 0.3ml
ロ) 回数および間隔	1週間隔で2回と3回の二方法

(表2.)

インフルエンザワクチン接種計画	
抗体価の測定	
H I 抗体を測定するために血清 1 ml をワクチン接種後3～4回採血する。	
採血時期	
1回目	2回目 3回目 4回目
(51年11月)	(51年12月) (52年2月) (52年5月)
	1カ月 2カ月 3カ月
接種前※	接種後 → 3カ月後 → 6カ月後
	↑
	ワクチン接種

〔結 果〕

表 3.に示す如く、参加協力施設は18施設で、Duchenne 型 568 例、その他 119 例計 687 例集った血清は約 2061 検体におよぶ極めて龐大なものである。今回は D 型についてのみ報告する。

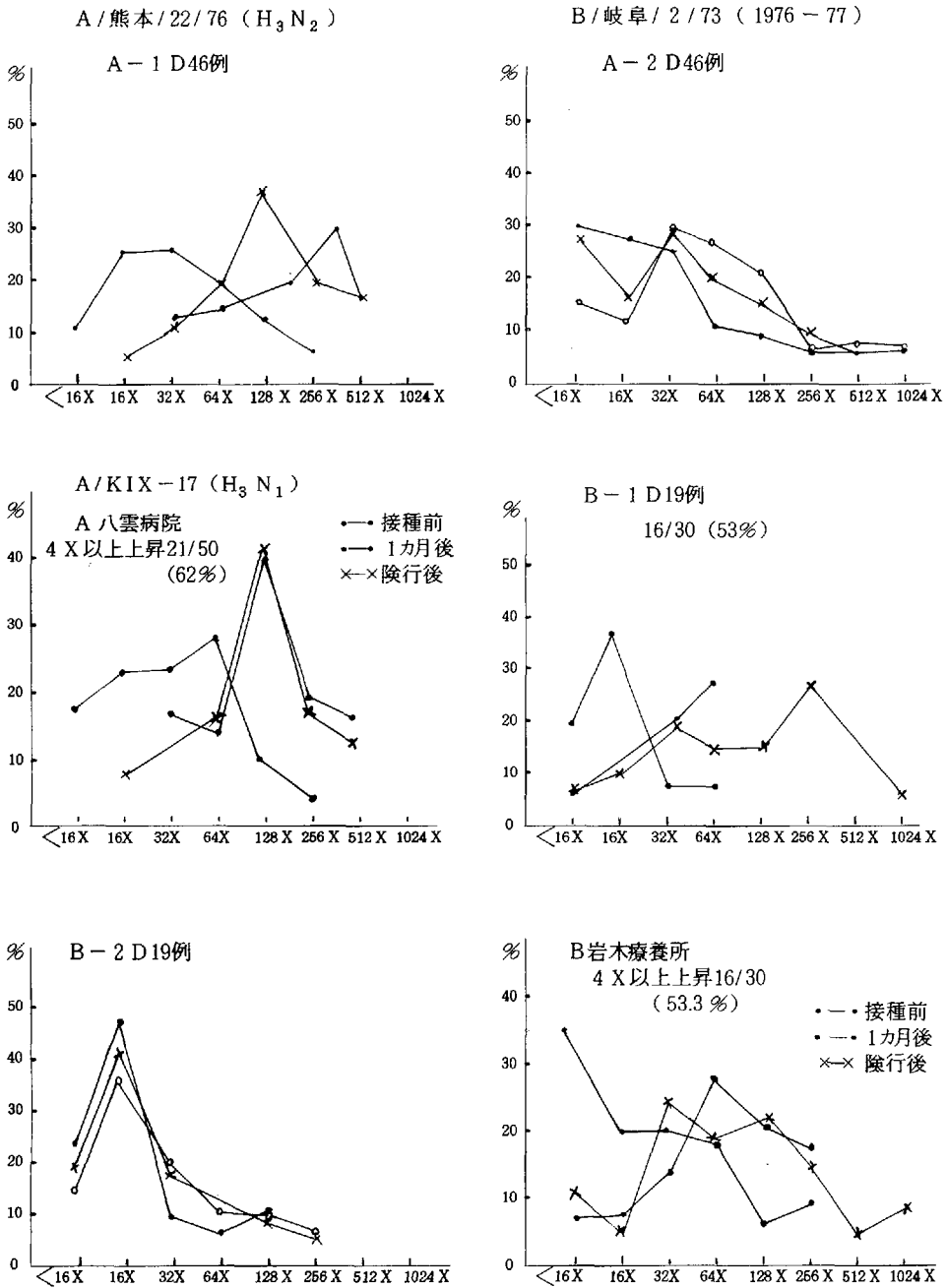
- ① 接種方法では 2 回法によるものが11カ所、3 回法が 7 施設
- ② 副反応は、なかった所 8 施設、発熱（37.5℃ 以上）のあったものは 687 例中18例（0.026%）、そのなかに、自家中毒様症状（アセトン血卅）、てんかん発作 2 例、発疹 1 例がみられた。
- ③ HI 抗体の状況について、< i >、A 型の上昇は一般に良好であり、PMD でも mass としては他の集団と大きな差はない様である。< ii >、更に A 型について、4 倍以上の上昇を示すものが各施設のなかで 50% 以上であった所は 12 施設（66.67%）でありかなり有効な上昇を示したものと思われる。50% 未満の所でも、接種前の抗体がすでに高い為であろうと思われる所が 3 カ所、院内で流行があったのではないかと思われる所、すなわち、3 回目の血清 HI 価が 2 回目と同じか、より高い分布を示した所が 2 カ所あった。
- ④ B 型について、< i >、殆んど抗体の動きがみられなかった所が 11 カ所もあり B 型 HI 価の上昇はよくなかった。< ii >、接種後 3 カ月の血清での抗体が高かった所はなく、B 型の流行はなかったであろう。
- ⑤ 抗原構造上ニユラミニデースの持つ意義について、K I X-17 (H₃N₁) について検査したが、特に意義を認めなかった。
- ⑥ 接種方法のちがいによる抗体上昇の差は、二回接種法と三回接種法とを比べてみると、4 倍以上の上昇を示したものの例数でみると、すなわち 50% 以上みられた施設は、2 回法では 28.9%、三回法では 22% であり大差はなかった。

(表 3.) 参 加 施 設

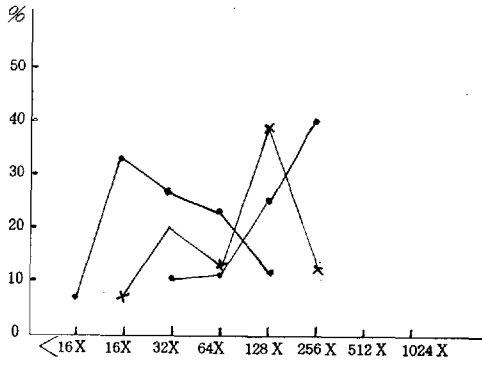
No.	施設名	記号	例数	接種法	副反応	No.	施設名	記号	例数	接種法	副反応
1	八雲	A	50	□	1/50熱	11	西奈良	K	24	イ	3/24熱
2	岩木	B	30	□	なし	12	松江	L	66	□	4/66熱
3	西多賀	C	25	イ	1/50熱	13	原	M	31	□	1/31熱
4	東埼玉	D	20	イ	なし	14	徳島	N	15	□	1/15熱
5	新潟	E	19	□	2/50熱	15	川棚	O	79	イ	0/79熱
6	長良	F	32	イ	なし	16	再春	P	22	イ	2/22熱
7	鈴鹿	G	85	□	なし	17	南九州	Q	25	イ	なし
8	宇多野	H	54	イ	なし	18	西別府	R	70	イ	なし
9	刀根山	I	30	イ	3/30熱	合 計 687 × 3 = 2061 検体					
10	兵庫中央	J	10	イ	なし						
(D型 568 名						その他 119 名					

国立療養所西別府病院

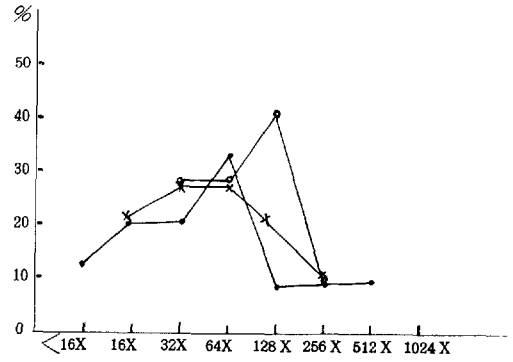
図 1. ワクチン接種前後の血抗体価分布



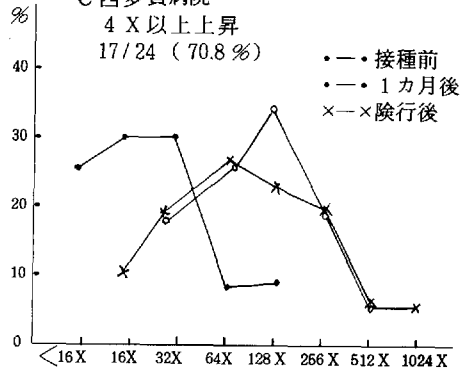
C - 1 D 15例
18/25 (72%)

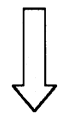


C - 2 D 15例

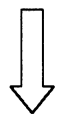


C 西多賀病院
4 X 以上上昇
17/24 (70.8%)





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔はじめに〕

閉鎖された病棟内の集団に流行性疾患が浸入すると爆発的流行となる事が多い。末期に心肺障害を示し、その事が high risk となっている PMD 患児にとって、その積極的な予防と対策は重要かつ不可欠のものと考えられる。我々は今回共同研究として全国的な field work を行ない検討したので報告する。